

「理数科 出前講座」がありました

1 1月9日(月) 7限 LHR 理数科 1, 2年生を対象にオンラインによる出前講座を実施しました。

講師：座馬耕一郎（ざんま こういちろう）氏

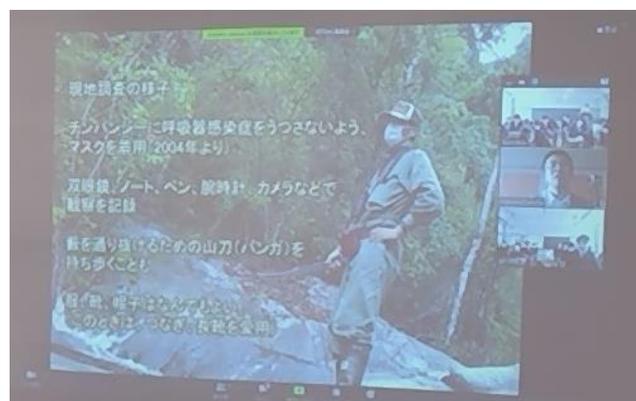
長野県看護大学 看護学部准教授、日本霊長類学会所属、本校卒業

主題：「アフリカでチンパンジーに睡眠を学ぶ」

概要：アフリカの熱帯林で生活する野生のチンパンジーを観察すると、私たちヒトととてもよく似ていることに気づく。たとえば「睡眠」で、チンパンジーもベッドの上で眠る。そしてこのベッドを研究していくと、チンパンジーの睡眠だけでなく、私たちヒトの睡眠の「謎」も解けてきた。



研究現場の様子や、データ収集の工夫といった話を交えながら、野生のチンパンジーと私たちとの関わりについて、大変興味深い話を聞くことができ、理数科で行っている課題研究にも参考になりました。



Zoomで、大学と2教室をつなぎ、双方向で質疑応答をすることで、より理解も深まり、知的好奇心が大いに刺激されました。



1 年生の感想

・チンパンジーについて、睡眠を含めたいろいろなことが分かった。ベッドのつくりから歴史にまで目を向けて考えが深められていく様子が、とても楽しそうだった。自分たちの課題研究に向けて「感動に？をつける」ことは、とても大事だと感じた。自分の研究もここまで細かいところまでできたらいいなと思った。

・チンパンジーも笑うとか遊ぶとか、共通点が意外とたくさんあって、面白かった。来年の課題研究で、疑問点とか持っていけるかなって思ったけど、今日の話聞いて持てそうだった。

・チンパンジーは、アフリカにいる人間と同じ祖先というイメージしかなくて、あまり興味を持っていなかったが、今回の座馬さんの研究の話聞いて、面白い研究だと思い、興味を持つことができた。考えたこともないことを知ると、面白いと感じられた。だから、自分から興味あることを調べたい。

2 年生の感想

・生物の授業で、生き物には共通の祖先がいることを習い、知っていたが、実際にチンパンジーとヒトの共通点である笑うことやベッドを作ることが分かり、より理解を深めることができた。新しくたくさんのが分かり、面白かった。

・チンパンジーはベッドを頑丈な骨組みと柔らかくさせるマットとで、枝を使い分けて作っていることがとても驚きだった。また、ほかの生物も、生活の質を上げるためにどんな工夫を行っているのか、興味が湧いてきた。

・自分が疑問に思ったことを研究にできる行動力がすごいと思った。今、自分たちも課題研究をしているから、参考にしたいと思うことがたくさんあった。チンパンジーのベッドで一度寝てみたい。

今回は、コロナの影響もあり、オンラインを利用しましたが、遠隔地の専門家の方の研究に触れる方法として、今後も活用できる可能性を感じました。

